

<p style="text-align: center;"><b>第 2-4 回</b></p> <p style="text-align: center;">(2020.5.19,5.26,6.2)</p>	<p style="text-align: center;"><b>資料調査の入り口</b></p> <p style="text-align: center;">須田千里教授(人間・環境学研究所)</p>
<p>■ <b>第 2 回:演習(KULINE の使い方) 5 月 19 日(火)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 配信場所: 学術情報メディアセンター南館 303 演習室</li> <li>✓ 出席者: 15 名</li> <li>✓ 動画: 授業で使うツールの紹介.mp4、KULINE 講義.mp4、KULINE 演習解答解説.mp4</li> <li>✓ 配布物: 授業で使うツールの紹介、KULINE 講義資料、KULINE 演習問題、KULINE 演習問題解説</li> </ul> <p>≪前半≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b><u>北村先生によるスタッフ紹介</u></b></li> <li>➤ <b><u>須田先生による授業の概要・目的の説明</u></b></li> <li>➤ <b><u>授業で用いるツールの紹介(14:45 - 14:50 担当:石原)</u></b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 冒頭に北村先生より「資料調査の入り口」による、本パートの概要・目的の説明がなされた。その後、演習補助者が Zoom で事前に録画した動画を流し、本授業で用いるツールとして、PandA 授業 HP、学習サポートデスク、附属図書館の Twitter アカウントの紹介を行った。</li> </ul> </li> <li>➤ <b><u>KULINE 講義(14:50 - 15:10 担当:山上)</u></b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 参考文献リストの役割やその記述例、図書と雑誌の違いを説明し、参考文献リストから書誌情報を読み取る方法を解説した。また、読み取った書誌情報を使用した KULINE の検索方法の説明を行い、検索のテクニックや検索結果の見方を例示した。</li> </ul> </li> </ul> <p>≪後半≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b><u>KULINE 演習(15:10 - 15:35)</u></b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 演習前に事前録画の動画を流し、例題を使用して KULINE 演習問題の解答方法の説明を行った。</li> <li>□ KULINE を用いて、図書・雑誌の所蔵を検索する全 5 題の演習を実施した。</li> <li>□ 演習補助者は受講生の状況を見てアドバイスを行い、質問対応にあたった。</li> </ul> </li> <li>➤ <b><u>KULINE 演習解説(15:35 - 16:00 担当:八木澤)</u></b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 事前録画の動画を流し、演習問題について解説を行った。</li> <li>□ 昨年同様、この演習問題の解答は評価に含めないこととした。</li> <li>□ 全体の授業は 15:50 頃に終了し、チャットから寄せられた質問に回答した。</li> </ul> </li> </ul>	

## ■ 第3回:講義 5月26日(火)

- ✓ 配信場所: 学術情報メディアセンター南館 303 演習室
- ✓ 出席者: 14名
- ✓ 動画: 宿題説明資料.mp4
- ✓ 配布物: 須田先生講義資料、宿題、宿題説明資料

### ➤ 須田先生の講義 -大学レベルの論文の作成- (14:45 - 15:55)

- 須田先生から以下の内容について講義があった。
  - ・論文とは: エッセイ、感想とは異なり、根拠を挙げながら独自の見解を示すことが求められる。
  - ・概念の整理: 論文を作成する際には、細かい部分にいきなり取り組むのではなく、自分の研究テーマを大きな枠組みの中で捉えて問題関心を明確化しなければならない。そのためには研究テーマの上位語・下位語・関連語を検討して概念整理を行うことが必要。
  - ・参考図書の活用: 論文の作成には、まず自分の研究テーマに基づいて百科事典等の「参考図書」を引く必要がある。参考図書を調査することで、
    - (1) 自分の研究テーマがどの程度メジャーか
    - (2) 自分の研究テーマの主要参考文献は何か
    - (3) 自分の研究テーマの権威者は誰かを知ることができる。これらは研究における基礎知識として、必ず押さえておかなければならない事柄である。
  - ・論文執筆の心構え: 参考図書から基礎文献、さらに個別論文と読み進める中で、先行研究の補足や一部修正、新説の提示等が可能な手ごたえが得られれば、論文執筆へと進む。その過程で、計画を立てる習慣をつけることが重要である。もし先行研究を読み進めるうちに、新規性のある論文を書くことが難しそうな場合は、関連する別のテーマに移るか、ささやかでも良いので先行研究を補足・修正する。
  - ・次回課題の予告: 次回(第4回)はこの講義の内容を踏まえ、受講生の関心に応じた、テーマ設定、概念整理、参考図書の調査、基本文献の所在確認を内容とした課題(JapanKnowledge 演習)を実施する。

### ➤ 宿題の説明 (15:55 - 16:05 担当:石原)

- 演習補助者が Zoom で事前録画した動画を流し、宿題について説明した。講義の内容を踏まえて、自分の関心のあるテーマを1つ設定し、アプローチする分野、キーワードの概念整理、調査テーマのタイトルを回答するよう指示した。
- 次回の JapanKnowledge 演習は宿題で設定したテーマを利用して実施することを併せて連絡した。

## ■ 第4回:演習 6月2日(火)

- ✓ 配信場所:学術情報メディアセンター南館 303 演習室
- ✓ 出席者:15名
- ✓ 動画:実習説明.mp4
- ✓ 配布物: JapanKnowledge 演習説明資料、JapanKnowledge 演習解答用紙、事典リスト、課題提出方法説明資料

### 《前半》

#### ➤ 先生による概念整理についてのフォローアップ (14:45 - 15:00)

- 事前課題として課した宿題(実習で調査するテーマ・キーワードの設定)について須田先生が主にキーワードマップについて講評した。

#### ➤ JapanKnowledge 演習説明 (15:00 - 15:25 担当:山上)

- 演習補助者が Zoom で事前録画した動画を流し、JapanKnowledge 演習に向けて、前回の内容を復習した。資料の選択基準や採点のポイントに加えて、過去の実習で寄せられた質問に基づいて、KULINE や参考図書の画面コピーを使いながら内容判断の例を具体的に説明した。

### 《後半》

#### ➤ JapanKnowledge 演習 (15:25 - 16:05)

- JapanKnowledge を利用して演習を行った。前回の宿題で設定したテーマ・キーワードを利用して、JapanKnowledge を検索して適切な参考図書を2点探し出し(課題5)、探し出した参考図書を比較してより参考文献の豊富な1点を選び(課題6)、参考図書の記載内容に基づいて、学内で所蔵する参考文献または項目執筆者の著作を調査する(課題7)ように指示した。演習補助者はチャットで、受講生の質問対応にあたった。

#### ➤ 課題提出方法の説明 (16:05 - 16:10 担当:山上)

- 課題は授業後も引き続き取り組むことができること、PandA の「課題」に掲載している Web フォームから期限までに提出することを説明した。最後に、次回の授業に関する連絡として、授業の予習ビデオを視聴し予習するよう指示した。